

江戸時代、オランダを通して伝わった新しい西洋医学を学ぼうとした医師たちの前に立ちはだかったのは言葉の壁でした。新しい知識を得るため、彼らは耳にした言葉、眼にした言葉を書きとめて、単語帳を作成し、辞書にまとめ、一から学んでいったのです。

阿蘭陀病名字引（外題） 1冊

（別名：Zikete woordenboek）

元治元年（1836）写（大野貞齋）23.5×13.5 cm

別名の「Zikete」はオランダ語で「病気」、「woordenboek」は「辞書」の意味。病名や解剖学用語などのオランダ語が筆記体で記され、対応する日本語が縦書きで書かれています。

【蘭醫語字典】 1冊

写 13×18 cm

カタカナ表記されたオランダ語に対応する日本語が書かれている単語帳です。麻疹、咳嗽、頭痛、眼胞菌毒等の医療分野の言葉の他、牛、熊、女郎花など多くの動植物名も収録されています。

和蘭文典字類 2巻1冊

飯泉士讓・高橋重威 著

東都 和泉屋吉兵衛・山城屋佐兵衛

安政5（1858）刊 18×12.5 cm

前後編で刊行されたオランダ語の辞書です。単語の列挙にとどまらず、品詞や時制など文法についても掲載し、解説しています。横書きのオランダ語にあわせ左綴じになっているため、著者の前文はページの並びが逆になっています。

新薬以呂波字引 2巻1冊

伊東本支編

明治9年（1876）刊（日就社 明治10年印あり）

8.5×17.5 cm（活版）

医師が日常用いる薬品名を集めた辞書です。「羅甸（ラテン）語、希臘（ギリシア）語ハ古来各国医師薬舗ノ通用スル所ナリ、英米二国ノ語ハ世界各港通ゼザル所ナク」として、ラテン語（ギリシア語含む）と英語の併記になっています。

【参考文献】

- ・横浜市立大学医学情報センター古醫書目録/大島智夫編
横浜市立大学医学情報センター, 1998.10